



S5-2

日本の診療ガイドラインにおける漢方の記載：KCPGの背景を中心に

もとお よしはる
 元雄 良治（日本東洋医学会EBM委員会診療ガイドラインタスクフォース・チェア
 金沢医科大学腫瘍内科学・集学的がん治療センター）

診療ガイドライン(clinical practice guideline: CPG)とは、米国の Institute of Medicine の定義(2011年)によれば、「エビデンスのシステマティック・レビューと複数の治療選択肢の利益と害の評価に基づいて患者ケアを最適化するための推奨を含む文書」である。

中国が WHO 活動の一環として、臨床医学の様々な分野で中医学の国際的な CPG を作成しようとした時期があった(2005年11月～2007年12月)。しかし、WHO の CPG としては、ユーザーが不明で、有効性と安全性に関するエビデンスに乏しい中で国際的な CPG が作成されることの危うさを日本から指摘し、そのプロジェクトは頓挫した(元雄良治、津谷喜一郎：日東医誌 2006; 57: 465-75)。

一方、日本の CPG で漢方がどのように記載してあるかを調査したところ、引用論文が存在し、エビデンスと推奨のグレーディングがあり、その記載を含むもの(タイプA)、引用論文が存在するが、エビデンスグレードと推奨のグレーディングのないもの(タイプB)、引用論文も存在せず、エビデンスグレードと推奨のグレーディングのないもの(タイプC)に分類できた。2007年3月までの CPG についてはすでに論文発表している(Motoo Y, et al. Complement Ther Med 2009; 17: 147-54)。

2014年3月31日までの情報を解析した KCPG Appendix 2014によれば、これまでの調査対象 CPG は710件、漢方の記載を含むものは82件(11.5%)で、内訳はタイプ A 25件、タイプ B 24件、タイプ C 33件であった。日本の CPG の約10%が何らかの漢方に関する記載を含み、タイプ A の CPG がそのうちの約30%であることは、漢方薬に関するエビデンスレベルの高いランダム化比較試験(randomized controlled trial: RCT)がまだ少ないことを反映している。

漢方治療エビデンスレポート(Kampo Treatment Evidence Report: EKAT)の作成と更新は日本東洋医学会 EBM 委員会の重要な活動であり、最新の EKAT 2013では402件の RCT が掲載されている。EKAT に質の高い RCT が蓄積されることが KCPG の充実につながるであろう。

略歴

1980年 東京医科歯科大学医学部医学科卒業
 1984年 米国テキサス州ダラス・ワドレー分子医学研究所研究員(2年間)
 1988年 金沢大学がん研究所附属病院内科助手
 1992年 金沢大学がん研究所附属病院内科講師
 2003年 金沢大学がん研究所腫瘍制御研究分野腫瘍内科助教授
 2005年 金沢医科大学腫瘍内科学講座主任教授・集学的がん治療センター長
 現在に至る